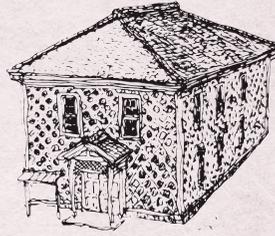


演説館



「社中」という思想

常任理事 い だ まこと 井田 良

慶應義塾では、学生・生徒・児童を塾生と呼び、卒業生を塾員と呼びますが、これに教職員をあわせて一つのカンパニーの構成員であり、福澤先生はこれを「社中」という言葉で表現しました。慶應義塾を支え発展させてきた原動力は、社中協力の思想であり、慶應義塾に学んだ者が一生涯にわたり慶應義塾に注ぐ母校愛であったといえます。

社中協力が実を結んだ最近の例を一つだけあげたいと思います。慶應義塾の法科大学院は、本年度の新司法試験において、合格者数では全国のロースクールの中で第3位、合格率では第1位の成績を収めました。塾の法科大学院の大きな特色は、卒業生組織である三田会の一つ、三田法曹会（塾出身の法曹実務家から構成される大きな団体です）の全面的なバックアップの下にその教育が行われているところにあります。今回の成果は、三田法曹会所属の塾員の皆さんの多大の自己犠牲を伴う協力の賜物といえるでしょう。

社中協力により支えられるのは、

塾生たちばかりではありません。慶應義塾を卒業した若い塾員たちは、社会に出ると、先輩塾員たちが築いて下さった高い社会的評価のために大いに助けられます。三田会に所属し、その集まりに顔を出すうちに（社中交歓）、先輩塾員たちから仕事の上でのアドバイスをもらったり、色々な形で協力してもらったりするということもあります。慶應義塾に「入社」することは、一生涯にわたり三田会のネットワークを自分の味方につけることを意味するのです。

本誌『塾』は、塾生の保護者の方々にお送りしているものですが、今回は「社中特別号」として、30万人以上へのぼる塾員の皆さんにもご覧いただくことといたしました。社中各人にとり慶應義塾は懐かしい心の故郷ですが、そればかりでなく、その協力によりさらに進化・発展させていきたい皆の共有物です。これを機会に、これからの慶應義塾のあり方につきさまざまなお知恵をお借りできますことを心より念願しております。